

第3学年 国語科学習指導案

指導者 立川 奏枝

場所 3年2組 教室

1 単元名

人を助けるために はたらく犬について調べ、もの知りブックにまとめよう
教材文 「もうどう犬の訓練」(吉原 順平)

2 単元設定の理由

- 本学級の児童(男子14名、女子19名)は、本に関する関心が高く、授業で学習したり、教師が紹介したりしたことについて、進んで調べたり読書したりすることができている。理科「動植物の成長」や総合的な学習の時間「福祉について」の学習においても資料や図鑑など説明的な文章を積極的に読む姿も多くみられた。児童はこれまで、2年では「ビーバーの大工事」の教材文を通して、大事な言葉を落とさずに読み、文章の中から必要な情報だけを選び出す学習経験をしている。また、3年「自然のかくし絵」などの学習を通して、大事な言葉や中心となる内容に気をつけながら読み、短い言葉でまとめる活動を繰り返し行ってきた。しかし、余計な言葉を省くことができていなかったり、反対に言葉が足らなかったりと十分にまとめる力が定着しているとは言えない。大事な言葉や文を見つけられても、接続詞や文末表現を上手く使えず、適切な文章にすることにむずかしさを感じている児童も少なくない。そこで、表現物を作成することを通して、適切に表現しつつ、編集する力を身につけてほしいと考える。
- 本単元は、知りたいことについて調べて短くまとめる活動を通して、大事な言葉や文を見つけながら読み、短くまとめて要約する力をつけることをねらいとしている。教材文「もうどう犬の訓練」では、盲導犬の仕事や訓練内容などが段落ごとにはっきりと分かれているため、目的や必要に応じて文章の要点や細かい点に注意しながら読んでいきやすく、要約するのに適した教材である。大事な言葉や文は何か、文章にするためにどのような言葉を補うべきか思考しまとめる学習を通して、児童は要約の仕方を身につけることができるだろう。また、単元を貫いて行う「もの知りブック」づくりの活動を通して、目的をもって情報を集め、様々な情報から必要なことを取り出し、それをまとめることで相手に伝わる文章を書く力も定着していく。読書に関心が高い本学級の児童にとって、「もの知りブックにまとめよう」という単元は魅力的であり、意欲的に学習できると考える。
- 指導にあたっては、以下の点に留意する。
 - ・単元導入時に「もの知りブック」の教師モデルを示すことで、自分の「もの知りブック」の作成に向けて学習の見通しを持たせ、意欲的に取り組めるようにする。
 - ・完成した「はたらく犬のもの知りブック」は、学校図書館に置くことや校内文化祭で紹介することを伝えることで、読み手を意識させ、目的を感じながら教材文や関連する資料を読み進められるようにする。

6 本時案（第二次 4 / 5 時）

- (1) 主眼 もの知りブックを作るために、「人を安全にみちびく訓練」について大事な言葉や文を見つけ、要約することができる。
- (2) 準備物 要約シート（児童用、拡大掲示用）、はたらく犬に関する資料・コピーなど
- (3) 展開

過程	学習活動 ・ 内容	○指導上の留意点 ◆評価 （評価方法）
つかむ	1 本時の課題をつかむ。 （教科書 p.34－p.36、段落⑨～⑫）	○教材文「もうどう犬の訓練」の段落構成図をもとに、本時の位置を確認することで学習の見通しをもたせる。
／	もうどう犬の「人を安全にみちびく訓練」とは、どのような訓練か要約しよう。 2 教材文を読み、手がかりとなる言葉や文を見つけ、要約する。 ・手がかりとなる言葉や文 あぶないもの前で止まったり、それをよけて進んだりすること。 使っている人にとってきげんな命令には、したがわないこと。 ・要約（接続詞、文末表現）の仕方 つなぐ言葉・・・また、それから等 文末表現・・・～訓練です。	○教材文が書かれた要約シートを使って、大事な言葉や文、省くところを見つけ、線を書き込ませることで、視覚的な要約の手がかりとする。 ○要約するときの観点や問われていることに対するふさわしい答え方の文型を提示することで、どの児童も活動にとりかかりやすくする。
考える・深める	3 要約した文章について話し合う。 ・要約の観点 問いの答えになっているか そのためのたいじな言葉や文があるか 同じ意味の言葉や文が繰り返されていないか たとえは、省いているか 言葉や文をつなぐ言葉でつないでいるか	○交流の場を設定し、自分と友達の要約を比べさせることで要約への意識を高める。 ○観点にそって確認させることで、大事な言葉を落とさずに分かりやすくまとめているか吟味できるようにする。 ◆大事な言葉や文に気をつけて、「人を安全に導く訓練」について、内容をまとめながら読むことができたか。（要約シート）
／	4 他のはたらく犬の訓練について調べる。 ・それぞれにあったふさわしい訓練	○調べることを教材文と関連させ、「訓練」に焦点化することで、目的を絞って必要な情報を選ぶことができるようにする。 ○はたらく犬の資料をコピーしたものに、線や印を書かせることで「もの知りブック」の作成時に活用できるようにする。 ◆自分の選んだ資料を意欲的に読み、大事な言葉や文を見つけようとしているか。 （態度・コピー本への書き込み）
まとめる	5 本時の学習の振り返りをする。 ・要約の仕方について学んだこと 自分が見つけた要約するときのポイントや意見交流で学んだこと	○意見交流をした後、自分の要約でよくなったところや参考になった友達の意見などを発表することで本時の学習を振り返りと次時への意欲づけを行う。

- ・関連する資料を並行読書するにあたり、スムーズな要約の活動につながるように、教師が精選した本をあらかじめ準備しておく。児童の興味関心にあった資料の選択ができるようにする。
- ・形式段落の番号をつけたり、段落ごとに大事な言葉に短く線を引かせたりすることを通して、段落相互の関係や段落の中心となる内容を正しく読み取ることができるようにする。
- ・要約するときの観点や問われていることに対するふさわしい答え方の文型を提示することで、それを確かめながら要約したり文章を書いたりできるようにする。
- ・教材文の読み取りをした後に、並行読書の時間を確保し、自分が選んだ本のコピー本で学習の内容と対応するページ、または自分の疑問に対する答えがのっているところを探させ、付箋を貼らせたり、線や言葉など書き込みをさせたりすることで、「はたらく犬のもの知りブック」作成の材料を集められるようにする。
- ・一人学びの時間、交流の時間を繰り返し取り入れることで、考えをまとめたり、相手に伝わる文章に練り直したりし、要約する力を培っていけるようにする。

3 単元の目標

- 知りたい事柄について進んで資料を調べたり、文章にまとめようと意欲的に考えたりすることができる。
- 目的に応じて、大事な言葉や文を落とさずに、文章を要約することができる。
- 相手に伝わるように、資料などに書かれている内容を大事な言葉や文を使ったり、言葉をつなげたりして分かりやすくまとめて書くことができる。

4 単元の評価規準

【言語活動】もの知りブックにまとめよう		
国語への関心・意欲・態度	読む能力	書く能力
<ul style="list-style-type: none"> ・はたらく犬について関心をもって読み、進んでいろいろな資料を調べようとしている。 ・「はたらく犬のもの知りブック」作成に向けて、分かりやすい文章にまとめようと意欲的に考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大事なことを押さえて、段落や文章のまとまりを意識しながら内容をまとめている。 ・自分の知りたいことをまとめるために、文章の要点や細かい点に注意しながら必要な情報を要約している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関心のあることから書くことを決め、書く上で必要な事柄を調べている。 ・大事な言葉や文を選び、調べたことを分かりやすい文章で「もの知りブック」にまとめて書いている。

5 単元の指導と評価の計画（全11時間 本時5 / 11）

過程	時	学習活動	□評価規準（評価方法）	
第一次	1	「はたらく犬のもの知りブック」のモデルを見て、単元の見通しをもつ。 ・関連資料の紹介	関 「はたらく犬のもの知りブック」をつくることに興味をもち、自分の興味のある本や題材を選び、読もうとしている。（発言）	
第二次	2	教材文「もうどう犬の訓練」について通読し、大まかな内容をとらえる。	はたらく犬に関する資料の並行読書	読 文章構成や段落相互の関係に気をつけながら読み、内容を大まかに理解している。（教科書の書き込み・発言）
	3	教材文の中から「もうどう犬はどのような犬か」について読み取り、要約する。		関 「はたらく犬のもの知りブック」作成に向けて、教材文や自分の選んだ資料を読み、大事な言葉や文を見つけようとしている。（態度）
	4	教材文の中から「人のいうことにしたがう訓練」について読み取り、要約する。		読 大事な言葉や文を見つけて、内容を短くまとめながら読んでいる。（態度・要約シート）
	5 本時	教材文の中から「人を安全にみちびく訓練」について読み取り、要約する。		書 もの知りブックを作るために、題材ごとにある必要な言葉を探し、見つけている。（要約シート）
	6	訓練の内容と盲導犬の心構えを整理した上で、教材文の中から「目の不自由な人にとって盲導犬の存在」について要約する。		
第三次	7	「もの知りブック」をつくるために、はたらく犬について自分の疑問を見つけたり、それを解決するための情報を探したりする。	関 はたらく犬について興味をもって読み、進んでいるいろいろな資料を調べようとしている。（態度）	
	8 ・ 9	選んだ本の中から、必要な情報を選び、「はたらく犬のもの知りブック」をつくる。	関 「はたらく犬のもの知りブック」作成に向けて、分かりやすい文章にまとめようと意欲的に考えている。（態度） 読 文章の要点や細かい点に注意しながら、自分の知りたいことの答えを探しだし、分かりやすく要約している。（態度、カード） 書 調べたことを要約し、相手に伝わる文章で「もの知りカード」を書いている。（カード）	
	10 ・ 11	友達と「はたらく犬のもの知りブック」を読み合い、感想を交流する。	関 友達のもの知りブックの内容に興味をもって読み、感想を伝えようとしている。（態度・発言）	

1 単元名

人を助けるためにはたらく犬について調べ、もの知りブックにまとめよう

「もうどう犬の訓練」

2 単元目標 (本時 5/11)

- 知りたい事柄について進んで資料を調べたり、文章にまとめようと意欲的に考えたりすることができると。
- 目的に応じて、大事な言葉や文を落とさずに、文章を要約することができる。
- 相手に伝わるように、資料などに書かれている内容を大事な言葉や文を使ったり、言葉をつなげて書いて分かったりやすくとまとめることができる。

3 主眼

もの知りブックを作るために、「人を安全にみちびく訓練」についてだいたいな言葉や文を見つけ、要約することができる。

4 評価

「はたらく犬のもの知りブック」作成に向けて、教材文や自分の選んだ資料を読み、大事な言葉や文を見つけようとしている。
大事な言葉や文を見つけて、内容を短くまとめながら読んでいる。

答え方

訓練です。

もうどう犬の「人を安全にみちびく訓練」とは、どのような訓練が要約しよう。

もうどう犬の訓練 吉原 順平

つなぐ言葉	たどえ ×
だいたいな言葉や文	くり返し ×

⑨
⑩
⑪
⑫

教材文の
拡大コピー

教科書の挿絵 (写真)

本時の流れ

1. 本時の課題をつかむ。
(教科書 P54、P55、段落⑨、⑫)
○ 教材文「もうどう犬の訓練」の段落構成図をもとに、本時の位置を確認する。
2. 教材文を読み、手がかりとなる言葉や文を見つけ、要約する。
・手がかりとなる言葉や文
・要約(接続詞、文末表現)の仕方
○ 教材文が書かれた要約シートを使って、大事な言葉や文、省くところを見つけ、線を書き込ませることで、視覚的な要約の手がかりとする。
3. 要約した文章について話し合う。
・要約の観点
○ 交流の場を設定し、自分と友達の要約を比べさせることで要約への意識を高める。
○ 観点にそって確認させ、大事な言葉を落とさずにまとめているか吟味させる。
4. 他のはたらく犬の訓練について調べる。
・それぞれにあつたふさわしい訓練
○ 調べることを教材文と関連させ、「訓練」に焦点化することで、目的を絞って必要な情報を選ぶことができるようにする。
○ はたらく犬の資料をコピーしたものに、線や印を書かせることで「もの知りブック」の作成時に活用できるようにする。
5. 本時の学習の振り返りをする。
・要約の仕方について学んだこと
○ 意見交流をした後、自分の要約でよくなったところや参考になった友達の意見などを発表することで本時の学習の振り返りと次時への意欲づけを行う。